

## 2. 各事業の概要と統計（昭和49年）

### <1> 微生物検査

- (1) 腸内細菌検査における赤痢菌の検出件数は、例年の如く少なく3例のみであったが、これはすべてB群2aで、薬剤感受性試験では、いづれもPCにのみ耐性であった。うち1例はベトナム産であるところから、他の2例においてもこの外国産サルモネラに由来するものと推定された。サルモネラ菌については、12例検出しB群6例、C群2例、D群1例、G群2例、不明1例である。
- (2) 学童寄生虫卵検査は、本年度より全市小学校のうち7校を対象に、ぎょう虫卵検査を行い、保有率の傾向を調査することにしたが、保有率は非常に低く0.4%であった。
- (3) 食中毒の疑いによる細菌検査は、年間56件あったが、検出菌別では、C1-welchii 5例、staph-aureus 4例、Vibrio-parahaemolyticus 4例であり、C1-welchiiによる集団発生が2例あったことは、今後食品衛生上興味深いことである。
- (4) 食品細菌検査の検体数は849件であるが検査項目についてみると、従来の規格検査に加えて食中毒起因菌の検査依頼が多くなっているのが特徴である。
- (5) ウイルス検査では、従来行っている風疹・インフルエンザの流行予測のほか、インフルエンザの蛍光抗体法の実用化について研究している。また、インフルエンザウイルス分離検査ではA-ホンコン型を分離した。
- (6) 調査研究では、ウイルス性疾患の流行予測調査のほか、ヒト・食品・河川水等におけるサルモネラ菌の疫学調査ならびに食品における食中毒起因菌の実態調査を行っている。

### 事業統計

#### (1) 微生物検査の実施状況（検査件数）

昭和49年中

検査項目		件数	検査項目		件数
細菌	分離同定	腸内細菌 82,773	結核	培養検査	186
		その他の細菌 60		薬剤耐性検査	1
	食中毒細菌検査	339	寄生虫卵検査		22,805
菌	食品衛生細菌検査	849	ウイルス	分離同定試験	23
	薬剤感受性試験	207		血清試験	1,293
			計		108,536

## (2) 検査別経由別の検査表

昭和49年中

経由別 \ 区分	細菌	結核	寄生虫卵	食品細菌	食中毒	ウイルス
保健所	68,063	185	757	849	339	
医療施設	2	1				
学校・事業所	9,952		17,163			7
その他	4,720	1	4,885			
自から行ったもの	847					1,316
計	83,884	187	22,805	849	339	1,316

## (3) 腸管系伝染病(赤痢)対象別検査表

昭和49年中

区分 \ 対象	学校給食	事業所給食	クリニック	営従	防疫	その他	計
被検人員	2,629	7,323	1,104	66,695	264	4,722	82,737
赤痢菌	—	—	—	—	3	—	3
陽性率(%)	—	—	—	—	1.14	—	0.004

## (4) 学童寄生虫卵検査状況(小・中学校)

昭和49年中

区分 \ 対象	検体数	陽性数	陽性率(%)
回虫卵	—	—	—
ぎょう虫卵	8,608	34	
計	8,608	34	0.40

## (5) ウイルス検査の項目別検査

昭和49年中

区分 \ 対象	分離同定	血清試験	計
インフルエンザウイルス	23	1,111	1,134
その他のウイルス	—	182	182
計	23	1,293	1,316

## (7) 食中毒の疑いによる細菌検査表

昭和49年中

※ 整理番号	受付 月日	検出された病因推定菌種	検出した主 なる食品	調理場所	所管 保健所	患者便等		食品等	
						検 体 数	陽 性 数	検 体 数	陽 性 数
1	1.14	<i>Clostridium welchii</i> Hobbs type 8	もつ	家庭	白	2	0	3	1
2	1.24	不 明	タコサシミ	#	中・東	1	0	3	0
3	1.25	不 明	うに	#	北	3	0	1	0
4	2.6	<i>Staphylococcus aureus</i> coag type I	コロケ	#	中	3	2	2	1
5	2.15	不 明	エビ天ぷら	#	南	1	0	5	0
6	2.27	不 明	牛乳	学校給食	東	4	0	3	0
7	#	<i>Staphylococcus aureus</i> coag type VI	コマイ煮付 シメジ	事業所給食	中・西	6	6	8	3
8	3.4	不 明	牛乳	学校給食	東	2	0	6	0
9	4.16	不 明	ダンゴ	販売店	中	1	0	4	0
10	4.17	不 明	牛乳	学校給食	北	1	0	3	0
11	5.27	<i>Staphylococcus aureus</i> soag type III	タマゴロール	仕出屋	中	1	0	17	15
12	5.28	<i>Clostridium welchii</i> Hobbs type 13	サッポロ ヌードル	事業所給食	中	2	2	2	0
13	6.19	不 明	毛ガニ	家庭	東	1	0	2	0
14	6.25	不 明	焼飯	食堂	白	3	0	7	0
15	6.28	<i>Clostridium welchii</i> Hobbs type 8	焼豚	病院給食	中	10	6	14	2
16	7.1	不 明	ホワイト フィッシュ	家庭	白	1	0	2	0
17	7.14	不 明	カップ ヌードル	#	西	1	0	1	0
18	7.21	不 明	毛がに	#	豊	1	0	3	0
19	7.24	<i>Staphylococcus aureus</i> coag type II	弁当	飯場	豊	5	2		
20	8.6	不 明	イカサシミ	家庭	中・西	1	0	1	0
21	8.9	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> 0-5:K-15	不明	#	東	2	1		
22	8.21	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> 0-5:K-15	うに	#	南	4	3		
23	9.2	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> 0-3:K-54	かに	販売店	東	5	5	2	0
24	9.30	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> 0-3:K-54	イカサシミ	旅館	白	13	1		
25	10.31	不 明	ウグイスモチ	家庭	北	1	0	4	0
26	11.14	<i>Clostridium welchii</i> Hobbs type 6	トリ肉炊め	仕出屋	白	51	39	21	4
27	12.25	<i>Clostridium welchii</i> Hobbs type 不明	ロースト チキン	家庭	東	1	0	1	0

※ 食中毒の疑いによる細菌検査は年間で56件あった。  
食中毒検査依頼のうち便1件のみ、あるいは食品のみの検査依頼は除外した。

<2>臨床検査

(1) 臨床検査-I:健康保険診療報酬基準内の検査

検体数2,651件に対し検体平均1.3項目の検査を実施した。依頼別では市内各保健所からのものがほとんどを示しており、集団別では市役所職員、一般事業所従事者で35才以上の年齢の人を対象とした成人病予防検診に伴う検査で循環器、肝機能検査についてスクリーニングを実施したのち精密検査をおこなった。

(2) 臨床検査-II:労働衛生法、公害に関連した特殊臨床検査

検査件数は1,157件で検査の内容は血液・尿・毛髪など人体に由来する検査試料について鉛、水銀などの重金属分析及び、ALA-Dなどの重金属によって影響を受ける酵素活性値の測定などである。

(3) 梅毒検査

検査件数は4,048件で、このうち保健所からの依頼によるものが3,294件で約82%をしめ、残り18%が市内の医療施設からのものであった。検査法は、カルジオライピン抗原による3法のほか、この検査で陽性または、不一致、判定保留の結果をみたものについて、TPHA検査を併せて実施した。

事業統計

(1) 臨床検査の項目別検査状況

昭和49年中

区 分		件 数	区 分		件 数
尿	潜 血 反 応	19	血	L D H ・ A L P	155
尿	重 金 属 分 析	113		コ レ ス テ ロ ー ル	206
血	赤 血 球	22	血	糖	114
	白 血 球	22	清	β - リ ボ 蛋 白	96
	血 色 素	31	電 気 泳 動	96	
	ヘ マ ト ク リ ッ ト	959	(1)	そ の 他	65
	重 金 属	995	小	計	3,578
液	その他(△ALA-D含む)	1,026	血	ガ ラ ス 板 法	4,048
	小 計	3,055		凝 集 法	4,048
血	G O T	171	清	緒 方 法	4,048
	G P T	177		T P H A	1,101
	R A C R P A S L O	65	(2)	小 計	13,245
清	Z T T ・ T T T	120	そ	毛 髪 重 金 属	240
	C C L F	380	の	そ の 他	54
(1)	総 蛋 白	118	他	小 計	294
	中 性 脂 肪	1,815	合	計	20,304

(2) 健康者にみられた梅毒反応陽性数並びに陽性率

検査対象	検 体 数	陽 性	
		件 数	%
主として一診	2,657	22	0.83
妊 婦	688	4	0.58

< 3 > 環境検査

- (1) 一般飲料水（水道水・井戸水）検査は、依頼検査数が3,446検体で48年とほぼ同じ数であったが、地下鉄工事関係からの大口依頼（153件）が目立った。
- (2) 飲料適否は水道浄水定期・臨時検査の適合率は77.15%で昨年より3.1%、自家用一般飲料水の適合率は53.76%で8.26%向上した。
- (3) 浴槽水・プール水については、本年保健所試験室でも一部行つたので依頼件数が減少した。
- (4) 昭和49年中に一般市民より依頼のあつた自家用飲料水についての苦情の集計は、第4表のとおりである。
- (5) 本年から新規事業として有害物質を含有する家庭用品の検査を当係で行うことになり、衣料品などのホルマリン検査を37件行つた。検査の結果は特に問題のあるものはなかつた。

事業統計

(1) 検体別検査状況

検査	検査別	判定別	昭和49年				昭和48年				中	
			検査別判定		総合判定		検査別判定		総合判定		総合判定	
			適	不適	計	不適	適	不適	計	不適	適	不適
水道水	原水	細菌検査	155	111	266	160	173	110	118	228	115	117
		化学検査	136	82	218	412	122	275	18	293	279	99
浄水	浄水	細菌検査	412	41	453	412	122	273	82	355	279	99
		化学検査	407	95	502	923	909	695	520	1,215	760	910
井戸水	自家用	細菌検査	871	501	1,538	463	283	499	288	787	595	417
		化学検査	874	664	1,538	27	44	59	25	84	64	59
水道法密	原水	細菌検査	429	141	570	23	27	60	47	107	18	6
		化学検査	409	173	582	19	7	11	2	13	18	6
浄放	浄水	細菌検査	19	12	31	19	12	12	3	15	18	6
		化学検査	19	12	31	94	93	132	137	142	142	6
浄放	槽水	細菌検査	94	91	185	94	93	132	137	142	142	6
		化学検査	91	91	182	273	273	360	360	360	360	6
一般環境	浴槽水	細菌検査	123	26	149	129	46	249	58	307	249	63
		化学検査	93	29	122	85	15	248	14	262	37	87
家庭用品検査	ブール水	細菌検査	90	13	103	85	15	37	47	84	37	87
		化学検査	72	—	72	—	—	29	85	114	—	—
家庭用品検査	気	細菌検査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		化学検査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計			273	273	546	273	37	—	—	—	—	—

(2) 月別および依頼別検体数

検体別	依頼別		月											
			適		不適		適		不適		適		不適	
	適	不適	適	不適	適	不適	適	不適	適	不適	適	不適		
水道水	原水	保健所	—	—	1	6	—	—	3	3	—	—	11	11
		学校・事業所	6	12	14	3	14	12	15	11	13	16	16	18
	浄水	保健所	—	—	7	5	—	—	—	—	—	—	31	18
		医療機関	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	水	学校・事業所	18	4	24	6	38	7	18	9	34	8	35	9
		計	24	16	46	20	52	19	36	23	47	24	93	56
井戸水	自家用	保健所	3	6	—	3	6	8	—	3	1	3	9	1
		行政機関	3	2	3	1	—	—	2	—	4	—	6	1
		医療機関	4	—	9	6	4	1	4	3	9	—	2	1
		学校・事業所	40	19	34	21	34	16	47	19	45	26	54	45
		その他(個人)	10	20	18	13	18	28	14	28	37	37	26	62
	計	60	47	64	44	62	53	67	53	96	66	97	110	
	営業用	保健所	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
		学校・事業所	69	30	46	33	49	19	17	13	21	25	38	16
		計	69	30	46	33	49	19	17	13	22	25	38	16
	井戸水計	129	77	110	77	111	72	84	66	118	91	135	126	
	水道法精密	原水	学校・事業所	1	—	2	—	3	—	2	1	3	3	4
保健所			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
浄水		学校・事業所	—	—	1	—	5	5	2	—	2	—	—	—
計	1	—	3	—	8	5	4	1	5	3	4	6		
特殊項目	学校・事業所		3	—	3	—	—	—	1	—	1	—	10	
	その他		—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	1	
	計		3	—	4	—	—	—	2	—	1	—	11	
一般環境	浄化槽	学校・事業所	3	—	6	—	—	2	—	3	—	—	1	
	浴槽水	保健所	—	—	11	—	—	25	5	2	—	—	23	8
		学校・事業所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	プール水	保健所	3	—	5	—	—	—	—	—	—	—	3	—
学校・事業所		—	—	—	—	3	—	3	—	3	—	—	—	

昭和49年中

7		8		9		10		11		12		計	
適	不適	適	不適	適	不適	適	不適	適	不適	適	不適	適	不適
9	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	27
9	9	6	13	12	13	10	15	16	12	5	12	136	146
9	9	4	—	3	1	2	—	6	7	2	4	64	44
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	0
30	5	27	5	35	6	31	6	28	6	28	7	346	78
57	30	37	18	50	20	43	21	50	25	37	23	572	295
2	—	3	1	—	—	3	—	—	—	—	—	27	25
3	3	7	1	5	3	4	3	4	—	5	—	46	14
6	1	8	3	7	3	5	2	6	—	5	—	69	20
44	68	44	21	54	74	59	67	18	20	21	24	494	420
24	44	16	34	20	45	73	62	16	33	15	24	287	430
79	116	78	60	86	125	144	134	44	53	46	48	923	909
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
46	23	37	23	33	25	50	42	25	16	31	18	462	283
46	23	37	23	33	25	50	42	25	16	31	18	463	283
125	139	115	83	119	150	194	176	69	69	77	66	1,386	1,192
5	7	3	6	2	7	1	9	—	1	1	4	27	44
—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	1	1	3	2
6	2	—	1	—	2	1	2	1	—	2	1	20	13
11	9	3	7	2	9	2	11	3	2	4	6	50	59
1		4		2		1		3		1		30	
2		3		—		—		—		—		8	
3		7		2		1		3		1		38	
14		6		16		19		14		9		93	
65	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	126	46
—	—	—	—	1	—	—	—	2	—	—	—	3	—
13	2	19	8	—	—	—	—	—	—	—	—	43	10
3	3	7	—	5	2	6	—	6	—	6	—	42	5



## (3)特殊検査項目 内容別件数

種別	検査項目	年 別		検査項目	年 別		
		49	48		49	48	
井	鉄	75	57	塩素酸	—	1	
	マンガ	14	15	有機リ	2	3	
	亜鉛	11	16	リノ酸イオン	2	7	
	銅	7	14	A B S	2	3	
	鉛	6	5	酸度	—	—	
	クローム	3	6	アルカリ度	3	5	
	カドミウム	6	4	コバルト	2	5	
	アルミニウム	2	6	塩素イオン	2	3	
	カルシウム	3	4	n-ヘキサン抽出物	—	1	
	マグネシウム	2	4	蒸発残留物	—	6	
	ナトリウム	2	7	残留塩素	3	5	
	カリウム	2	5	PH	8	15	
	水銀	6	5	B O D	—	2	
	砒素	3	5	濁度	2	8	
水	沃素	2	1	色度	1	5	
	ふっ素	3	7	6価クローム	5	1	
	シアン	—	1	硫化物	2	6	
	硫酸イオン	1	12	浮遊物	6	6	
	硝酸イオン	1	5	導電率	9	1	
	硅酸イオン	2	7	透視度	10	4	
	フェノール	2	1	その他	5		
	浄放流槽水	蒸発残留物	—	11	アンモニア性窒素	—	1
		浮遊物	—	15	アルブミノイド窒素	—	1
		溶解物	—	11	B O D	—	2
PH		—	1				
水道水	マンガ	9	11	その他	10	14	
	亜鉛	9	9				
	硫酸イオン	9	10				
	鉄	12	—				
	ふっ素	7	—				

## (4) 自家用一般飲料水の苦情集計

苦	情 事 項	例 数
生 水 の 状 態	腐敗臭	12
	かなげ臭	12
	臭味がある	68
	油様臭	7
	硫化水素臭	2
	黴臭	1
	異味	4
	黒ずむ	10
	褐色に濁る	15
	白く濁る	11
	かなげ	7
	褐色浮遊物	9
	色がつく	5
	沈殿がある	11
	油が浮く	19
	砂が沈む	3
	洗濯物の色が変わる	18
	お茶の色が変わる	1
	石鹼の泡立ちが悪い	3
	水棲生物が存在	7
沸 か し た 状 態	油が浮く	9
	色が変わる	21
	褐色に濁る	13
	白色に濁る	8
	白色の沈殿	12
	臭味がある	2
	水垢がたまる	5
	浮遊物	1
	異物がある	4
	アルマイトが白く腐蝕する	1

資料表に記入されたものによる

#### < 4 > 食品検査

##### (1) 食品検査（食品等の収去試験年報参照）

本年はA.F<sub>2</sub>問題に端を発して、食品添加物の安全性に対する関心が高まり、収去検査、一般依頼検査共に伸びたが、特に一般依頼検査の増加が著しかった。又、サッカリンナトリウムの使用基準設定に伴う定量検査を10月から実施したが（補正予算：予算額689千円）、収去一般依頼共に基準値を超えるものが若干あった。

表1 検体数の比較

	49年	48年
収 去	1,313 (件)	1,229 (件)
一 般	722	457
計	2,035	1,686

##### (2) 製品検査（年報参照）

製品検査は、タール色素の製剤のうち、赤色104号の発癌性が問題となり、申請がなくなり、色素製剤の検体数が減少したが、検査した検体には特に問題となるものは少く、不適は粉末かんすいの異物によるもの1件、液体かんすいの比重によるもの4件のみであった。

##### (3) 農薬検査

当初実施は、17種51品目であったが、基準設定の増加等により10月に補正予算を組み（予算額2,855千円）検体数を増やし、26種109品目を実施した。

基準値を超えたものは、スイカ（ディルドリン）1件、ピーマン（EPN）1件、キュウリ、ホウレン草（エンドリン）それぞれ1件ずつの計4件であった。

##### (4) PCB検査

本年は、母乳、乳製品、食肉、卵等を中心に61検体を実施したが、いずれも高い値を示したものはなかった。